



ポストコロナの国際交流・協力に向けて

国際交流・協力センター

釧路校センター長 小野 亮 祐

今年度は5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが5類となり、様々な制限が撤廃されることで、国際協力・交流の動きの再活発化が明確に予感される年となりました。

釧路校から海外で学んだ学生は、ロンドン大学アジアアフリカ学院(SOAS、1名)、カルガリー大学(2名)、ラオス(1名)、シドニー工科大学(2名、前年度から引き続き)でした。海外からの受け入れは、前年度から継続して滞在をしている留学生(研究生)1名のみでした。

釧路に戻ってきた学生には、11月に開催された留学体験報告会において留学体験を報告してもらいました。そこでは留学中の学びや生活の様子、現地ならではの特別な体験、楽しいことも難しかったことも含め生き生きと話していただきました。こういった取り組みから、海外で学ぶことを魅力に感じ、次に留学をする者へとバトンタッチされていくことを願ってやみません。

今年度は上に述べた「予感」とともに、ようやくこのバトンタッチに向き合い始められる年となったと思います。コロナ禍は、なんらかの催しや取り組み中断をただけではなく、ルーティーンの中でのバトンタッチがいかに大事だったかを気づかせてくれています。いかなければ、止まったリレーを復活させてみれば、繋いでいたバトンがいったい何だったのか、どこへ行ってしまったのか、わからなくなって走っているという事態です。釧路校の国際交流も同様で、なかでも外国からの留学生の受け入れ態勢を立て直すことがそう簡単にはいかなくなっていきます。送り出す・受け入れる態勢が再構築され、新たな国際交流のバトンが受け継がれるように尽くしてまいりたいと存じます。

国際協力の事業については、釧路校は継続的にJICA研修の「小学校理科教育の質的向上コース」にかかわってきました。2009年からは研修員が釧路校を訪問して国際交流の場ともなっています。今年度からはようやく飲食を伴う取り組みが解禁となり、釧路校の学生とともに餅つきをして交流を深めました。研修員からは釧路校での学生との交流が大変印象深かった旨の感想を得ており、今後も釧路校の重要な国際協力であり交流の場として発展させられればと考えております。

国際交流の取り組みとしては、ALTE-Nightがあげられます。これは釧路市及び近隣のALT4名を招き、学生がALTの観点からチーム・ティーチングや小中学校の英語教育を理解し、国際理解や留学への関心を深めることを目的としたイベントです。アイスブレイクで

親睦を深めることからスタートし、続いて ALT から彼らのおかれた状況や課題、背景などをそれぞれの視点から話していただきました。その後、学生を交えた質疑応答も行われ、学校現場の理解にも直結するこの取り組みは、教員養成大学らしい国際交流の取り組みといえましょう。

感染症についてはいまだ完全に克服されたわけではなく、またウクライナ情勢を中心とした国際問題は全く解決していないことは、国際交流にとってまだまだ重石となっています。加えて、昨今の急激な円安と物価高のトレンドは、日本から海外への留学のハードルをより押し上げています。そのような中でも、国際交流・協力のリレーを力強く後押しできるよう、釧路校センターとして様々な創意工夫をしてゆきたいと考えております。今後ともご理解とご協力のほどよろしく願いいたします。

留学体験報告会

釧路校国際交流・協力センター

釧路校国際交流委員会では、派遣交換留学で留学した学生と海外教育体験に参加した学生による、留学体験報告会を開催しました。本報告会は、学生の自発的な提案により実現したもので、企画や広報活動なども学生が自ら行いました。

【留学体験報告会】

1. 日時 令和5年10月19日（木）
18時00分～20時00分
2. 会場 北海道教育大学釧路校 402 講義室
3. 発表者 舟木 章太（英語分野4年）
麻原 鈴（家庭科分野3年）
苅込 明星（英語分野2年）
4. 発表内容

舟木さんは、オーストラリアにあるシドニー工科大学（UTS）に派遣交換留学で留学していた際の生活等について発表を行いました。麻原さんと苅込さんは、カナダにあるカルガリー大学に海外教育体験で行った際の経験等について発表を行いました。

その後は参加者と発表者との自由交流を行い、派遣留学や海外教育体験への参加を考えている参加者から、事前に用意・準備しておいたらよいことや、ホームステイ先での生活についての様々な質問がなされ、活発に意見交換がなされていました。

留学体験報告会

Date and time

10月19日（木）18:00～20:00

Location

402教室

Content

- ・留学経験者による報告会 + 質疑応答
- ・留学経験者との自由交流

Speakers

舟木 章太（英語分野4年、オーストラリア）
麻原 鈴（家庭科分野3年、カナダ）
苅込 明星（英語分野2年、カナダ）



ホストファミリーとの写真



お申込みはこちら →
からお願いします！



問い合わせ先：教育支援グループ



E-Night

Christopher Knoepfler

釧路校国際交流委員会では、コロナ禍後初となる「E-Night」を企画し、開催しました。今年の「E-Night」は、学生が ALT の観点からチーム・ティーチングや小中学校の英語教育を理解し、国際理解や留学への関心を深めることを目的とし、釧路市・厚岸町・鶴居村で勤務されている ALT の方々を講師としてお招きし、次のとおり開催しました。

【E-Night 講演会】

1. 日時 令和6年1月18日(木)
18時00分～20時00分
2. 会場 北海道教育大学釧路校 402 講義室
3. 講師 Justin Alexander Randall 先生
Ivy Fatima Bacus Ferrer 先生
Cole Evan Silva 先生
Andrew Joseph Swiatek 先生
4. 講演等

講演会は、学生主導のアイスブレイクで始まり、その後 ALT によるプレゼンテーションが行われました。4人のALTが小中学校での英語教育における実体験や、日本での生活や仕事への適応について深く語りました。特に、日本人教師とのコミュニケーションの取り方や、実際の授業での活動例に焦点を当て、効果的なチーム・ティーチングの進め方や英語教育の全般的な改善策について貴重な見識を共有してくださいました。講義終了後には、生徒たちが小グループセッションでALTの先生方と直接対話し、気軽に質問したり、経験談を聞いたりする機会がありました。



開催日時: 2024年1月18日(木) 18:00-20:00 (402教室)

テーマ: ALTの立場から見たチーム・ティーチングや小中学校の英語教育、ALTの日本での生活

内容: (1) アイスブレイク (2) ALTからの話 (3) 質疑応答 (4) ALTとの自由交流

ゲストスピーカー: JUSTIN先生(釧路市), TIMMY先生(釧路市), ANDREW先生(鶴居村), COLE先生(厚岸町)

申し込み: 右のQRコードからお申し込みください。
当日飛び込み参加・途中参加もOK!



講演会に参加した学生からは、次のような感想が寄せられました。

- E-Night での交流を通して、ALT 目線からの英語の授業がどのようなものであるのかを知ることが出来ました。自分が教師になった際の ALT との連携に関する指針にもなる活動だったと感じます。
- ALT からチーム・ティーチングや日本の英語教育についての考えを聞いたり、英語で話し合ったりすることができ、将来英語科の教員になった際にどのような工夫をしたらよいのかを考えるのにとっても参考になりました。
- E-Night で ALT の方々のお話を聞いて学校の先生たちが ALT と共に授業を作っていくというチームとしての意識を持つことが重要であると感じました。ALT の方々は日本の先生と生徒のことを一様に shy だと話していました。私自身も意見を英語で言うことはおろか、日本語であっても緊張してしまいます。しかし、失敗してもいいからチャレンジをすることが英語を学習するにあたって重要であるとお話を聞いて分かりました。その姿勢を教師として子どもたちに態度で示すことが大切であると考えます。英語のプロである ALT ともっと話し合う機会を設けて、担当するクラスに適した学びを展開していきたいです。普段聴くことのできない貴重な話を聞いて、みんなで協力して授業を作ると言う意識を持つ良いきっかけとなりました。

シドニー工科大学への交換留学を通して

地域学校教育実践専攻 4年 舟木 章太

訪問先：シドニー工科大学

訪問期間：令和5年2月5日～5月19日

約3ヵ月間の留学を終え、令和5年5月19日にオーストラリア、シドニーから帰国しました。留学先の University of Technology Sydney (シドニー工科大学) では、Australian Language and Cultural Studies program というプログラムを通してオーストラリアの歴史や文化を学ぶと同時に、英語力を向上させることができました。また、留学先の大学では授業以外にもサークル活動やイベント、ボランティア活動への参加を通して、多くの学生との異文化交流をし、海外の様々な文化に触れることができました。異国の地での経験はどれも新鮮で、私にとって大変貴重なものでした。実りある留学を行うことができたのは、国際交流事業資金があつてこそのものでした。国際交流資金を通して私の留学を支援してくださったことを心より感謝申し上げます。

今後は、これから留学へ行く学生へのサポートを通して、貴学の国際交流活動に貢献していきたいと考えています。

ハイキングに行った際の写真



The Three Sisters の写真



シドニーの写真



大学のキャンパスの写真



自分とよく向き合った1年間～UTS～

地域学校教育実践専攻 4年 東 衣 緒

訪問先：シドニー工科大学

訪問期間：令和5年2月6日～11月16日

私は2023年2月から11月まで約1年間オーストラリアのシドニー工科大学に留学していました。“1年の海外留学”と聞くと長く感じますが、異国の地で過ごす1年間はとても短く、しかし濃厚な時間でした。

私は大学で英語準備コース（Australian Language and Cultural Studies）を受講していました。秋学期では、Australian Language Studies、Australian Media、Australians at Workの3つの授業、春学期では、Australian Conversations、Neighbourhoods and Stories、Natural Australiaの3つを受講することができました。基本的に、どの授業も、オーストラリアの文化や歴史、環境問題を題材にアカデミックな英語を伸ばすための授業でした。Australian Language StudiesとAustralian Conversationでは、IELTSに向けライティングの練習やアカデミックな表現を学びました。他の授業では、それぞれの授業の題材について自分で参考文献やインターネットで調べた情報を基にレポートを書いたりプレゼンテーションの発表を行ったりしました。オーストラリアは固有の動物が多いことによる環境保護問題、先住民のアボリジニの人々、他の国からの移住者の問題など、日本とは違った様々な問題があります。それらについて授業で学び、その問題に対する自分たちの考えや解決策を考えることはとても興味深かったです。また、留学中にウルル（エアーズロック）に旅行に行ったのですが、その際にツアーガイドさんがアボリジニの方々やウルルについて説明してくれ、秋学期に学んだこと（Australian Mediaを通して）を実際に自分の目で見て肌で感じる事ができて、とても印象に残りました。オーストラリア人がアボリジニの方々への尊敬を示すために、アボリジニの方々の決まりを忠実に守っていたり、実際にウルルの周辺で生活しているアボリジニの方々を見かけたりすることもできました。北海道にもアイヌの方々がいる、その教育もありますが、オーストラリアのアボリジニの文化を守ろうとする活動ほど大きくないと思ったので、そのつながりも見えてきて、大学の授業と旅の経験が自分の新しい興味、関心につながりました。

オーストラリアでの生活は本当に楽しく、充実していて、絶対に留学に行ったら良かったと思っています。しかし、正直言ってしまうと自分の思い描いていた理想の留學生活ではありませんでした。楽しいこともあった分辛いこともありました。私は留學前は、IELTSの規定のスコアを満たし後期から学部の授業を受講したいと思っていましたが、シドニーでIELTSを2回受験したにも関わらず満たすことができず、同じコースに1年間いることになりました。また、留學開始から2か月後に始めたジャパニーズレストランをクビになってしまいました。オーナーから急に連絡が来て、「あなたはこの職場に向いていないと思う」と言われ、SNSのグループから退出させられていました。バイトの話は今では笑い話ですが、留學開始直後ということもあり、当時はとても落ち込みました。日本でバイトを突然クビになることはなかなか無いため、オーストラリアの洗礼を受けた気分でした。さらに、私の通って

いたコースはクラスメイトのほぼ全員が日本人であったため、日本語環境にならないように自分から行動する必要がありました。これらのように、自分の今の実力や理想と現実とのギャップもたくさんありました。しかしその分いい思い出や経験もありました。IELTS のスコアは取れませんでした。後期からオーストラリア人の友達も増え、前期から仲良くなった子には、留学が終わるころには「英語力伸びたよね」、と言ってもらえました。ジャパニーズレストランをクビにもなりましたが、その後自分でレジユメをいろいろなカフェに配り歩いて、家の近くのおしゃれなカフェに雇ってもらうことができました。そのスタッフは全員優しくお店の雰囲気も良くて、ウェイトレスとしてお客さんとのやり取りを通して英語でコミュニケーションする中で、語学力の向上も実感することができました。他にも、日本語補習校で毎週土曜日に、日本にバックグラウンドを持つオーストラリアの子ども達にアシスタント教師として日本語を教えていました。その日本語補習校で働く際に、Child Protection の資格やアレルギーに関しての E-learning で qualification を取る必要があります。その資格を取る上でシドニーの教育について学ぶことができました。授業の際は、オーストラリアの常識を持っている子どもたちに教えていたため、新しい視点から子どもたちをサポートしていくことができました。さらに、その日本語補習校で働いていた先生を通して、ローカルの日本についてのお祭りで習字ブースを担当させていただきました。そのお祭りの対象者は地元の子供達だったため、英語を使って日本の文化について教える貴重な経験をするすることができました。

理想の留学生活を送ったと言えなくても、1年間様々な経験を通して、自分と常に向き合い新たな発見をすることができました。失敗経験から見えてくる自分の短所、いい経験や友達との会話を通して気づく自分の長所、どれも今の私にとってとても大きな学びになりました。私はもともと、海外で経験を積んでしまえば日本に帰って来たくなくなるのではないか、と思っていましたが、実際は真逆で、こんなに素晴らしい文化をもっている日本について異文化理解を通して子どもたちに知ってほしい、また、子どもたちが日本だけではなく海外にも目を向けたくなるような教育をできるようになりたい、と考えるようになりました。私は来年度から小学校教員になりたいと考えています。自分の理想の教師像を実現するために、今回の経験を自分の教員人生のキャリアとしてしっかりと自分の中に落とし込んでいきたいと思っています。

バレーの大会に出場したときのメンバー（左下）



バイト先のコーヒー（flat white）



ウルルでの夕日



バイト最終日 (右手前)



【令和5年度 国際交流事業資金収支状況】

《令和5年度末現在残額》 (単位：円)

前年度繰越額	収 入 額	支 出 額	残 額
14,427,864	301,021	330,000	14,398,885

《令和5年度予算収支》 (単位：円)

予 算 額	支 出 額	差引増△減額	備 考
2,000,000	330,000	1,670,000	

《収支内容》 ※令和6年3月 日現在 (単位：円)

収 入		支 出		
寄付(後援会)	300,000	4月	海外に留学する学生に対する助成金(舟木)	30,000
預金利息	1,021		海外に留学する学生に対する助成金(東)	30,000
		5月	海外に留学する学生に対する助成金(舟木)	30,000
			海外に留学する学生に対する助成金(東)	30,000
			留学のために必要な語学力試験を受ける学生に対する助成金(川村)	10,000
		6月	海外に留学する学生に対する助成金(東)	30,000
			留学のために必要な語学力試験を受ける学生に対する助成金(川村)	10,000
		7月	海外に留学する学生に対する助成金(東)	30,000
		8月	海外に留学する学生に対する助成金(東)	30,000
			留学のために必要な語学力試験を受ける学生に対する助成金(佐藤)	10,000
		9月	海外に留学する学生に対する助成金(東)	30,000
		10月	海外に留学する学生に対する助成金(東)	30,000
11月	海外に留学する学生に対する助成金(東)	30,000		
合 計	301,021			330,000

平成31年4月まで、留学準備のために必要なTOEICやTOEFLなどの語学力試験受験に対して、後援会費で助成を行っていましたが、令和元年5月申請分より国際交流事業資金から助成するよう、基準の改正を行っております。

これに伴い、後援会において「語学力試験の助成」用として確保していただいていた予算を国際交流資金に「寄付」という形で、継続してご支援いただいております。

また、現在資金運用方法の見直しを行っており、これにより本資金の減少を抑制し、少しでも長く多くの学生への支援を可能にしていきたいと考えております。

【令和6年度 国際交流事業資金予算額】

《事業資金》 (単位：円)

令和6年度予算額	令和5年度予算額	差引増△減額	備 考
1,000,000	2,000,000	△1,000,000	

【令和5年度 外国人留学生名簿】

No.	氏名	性別	国籍	在籍身分	留学区分	受入期間
1	チン シン 陳 真	男	中国	研究生	私費	R5.4～R6.3

【令和5年度 派遣交換留学生名簿】

No.	氏名	性別	留学先	在籍身分	留学区分	派遣期間
1	カワムラ ユウカ 川村 侑加	女	イギリス	留学	派遣	R6.1～R6.3

【編集後記】

国際交流ニューズレター第24号をご覧くださりありがとうございました。

今年度は、釧路校としてコロナ禍後初となる派遣交換留学生2名が帰国し、留学を通して得た経験や活動報告を掲載することができました。また、留学体験報告会やE-nightといったイベントも徐々に復活させることもできました。

コロナによって途絶えてしまった「釧路校から留学に行ける」といったバトンを再び復活させ、釧路校の国際交流・協力事業が活発になるよう、活動を実施していきたいと思っております。

国際交流ニューズレター HUEIC-KC NEWS LETTER 第24号 (令和6年3月)
 北海道教育大学国際交流・協力センター釧路校センター運営委員会 発行
 〒085-8580 北海道釧路市城山1丁目15-55